

新中期経営計画の理念

我々は“なぜ”
「本業支援」に
取り組むのか？

- 必要とする支援を受けられていない
中小企業の皆さまの力となるため
- 地元の復興ならびに地方創生に
貢献するため



Keyword

顧客本位の
本業支援

統合効果発揮

中期経営計画の柱

持続可能な ビジネスモデルの確立 ～「本業支援」を核とする～

2018年実績

- グループおよび外部機関との連携強化
(ビジネスマッチング紹介実績累計2,500件突破)
(東京きらぼしフィナンシャルグループとの
ビジネスマッチング紹介実績累計100件突破)
- 福利厚生をサポートする新サービスの展開
- SBIマネープラザとの共同店舗設立

2019年施策

- 本業支援を核とする中小企業成長戦略の展開**
→ 財務の改善支援、企業価値の向上に寄与
- 仙台地区におけるじもとグループの存在感向上**
→ 仙台地区営業戦略の展開
→ きらやか銀行の審査担当者を仙台銀行本店内へ配置
- IT・FinTechへの対応**
→ キャッシュレス対応・アプリバンキングの導入

効率化・合理化 ～グループ業務運営態勢再構築～

2018年実績

- 両行本部部署間による人事交流実施
- グループ共通のイントラネット導入
- きらやか銀行事務センターへの業務集約
(5年間で3億2千万円のコスト削減見込み)

2019年施策

- グループ業務運営態勢の見直し**
→ バックオフィス統一による業務効率化
- グループのメリットを活かした更なるコスト削減**
→ システム・帳票等の統一化
→ きらやか銀行事務センターへの更なる業務集約
- RPAによる業務効率化**
→ ローン受付業務、事務センター業務

ガバナンス態勢の強化

2018年実績

- 改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応

2019年施策

- 監査等委員会設置会社への移行**
→ 取締役会の監督機能強化、迅速な意思決定および
業務執行態勢の確立

じもと グループの 目指す姿

- 「本業支援」でお客さまの喜びと成長を通して、地域経済の発展・地方創生に貢献していく。
- グループの統合効果を最大限に発揮し、地元の復興の一助となる。
- グループの収益確保と財務の健全性確保に努め、安定した顧客基盤、収益基盤を確立する。

計数計画と経営指標

	2018/3期(始期)	2019/3期 計画	2019/3期 実績	2020/3期 計画	2021/3期 計画
コア業務純益	44億円	44億円	41億円	50億円	62億円
当期純利益	34億円	22億円	18億円	30億円	40億円
コアOHR	85.27%	85.04%	85.74%	83.39%	79.95%
預金平残	23,131億円	23,350億円	23,063億円	23,585億円	24,020億円
貸出金平残	16,689億円	16,992億円	17,029億円	17,436億円	17,955億円
自己資本比率	8.70%	8.53%	8.39%	8.41%	8.35%
顧客向けサービス 業務利益(始期比増加額)	▲28億円 (-)	▲19億円 (+9億円)	▲15億円 (+13億円)	▲11億円 (+17億円)	1億円 (+29億円)

※顧客向けサービス利益＝貸出残高×預貸金利回り差＋役務取引等利益－営業経費